

答弁 近年、大型バスで来られる方が多く、雨が降ったとき、乗り降りができない。屋根を取り壊して高く上げなければならず、大規模な改造が伴う。現在、バスの乗り降りのところに、屋根をつけることを検討しており、来られる方の利便性を図っていきたい。

有害鳥獣対策について



永山 伸一

質問 近年、山間地域のみならず市街地周辺においてもシカやイノシシなど鳥獣が農林産物に多大な被害を与えており、年々拡大する傾向にある。現在の有害鳥獣対策では農林業の安定経営が危ぶまれるので広域的被害防止策や有害鳥獣駆除対策の強化が必要ではないか。

答弁 鳥獣による農作物への被害は、特に山間地域で大きくなってきている。これまで以上に猟友会及び関係機関と連携し、被害防止に努めたい。現行の鳥獣被害防止施設の導入補助事業の活用などにより、鳥獣被害防止に努め、地域ぐるみによる農地の保全管理作業などの

取組の推進など、被害防止対策の一体的な取組が必要であると感じている。

電源立地地域を生かした総合研究所について



大坪 幹也

質問 ①農林水産や商工業の発展、地元の人材育成のために、電源立地地域を生かした総合研究所の誘致を積極的に県に働きかける考えはないか。②電源立地地域を生かした総合研究所の誘致実現に向け、県議会議員や産学官を含めた各種団体との協議会等を予算を付けて設立される考えはないか。

答弁 誘致については知事にもお願いしつつ、本市としても、養殖や水産業の部分も含めての研究施設、野菜や果樹の温室栽培などの農業施設、研究施設、また、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーに関する研究施設など、一つに絞らず幅広い考えの中で誘致を進めていきたい。鹿児島県議会議員や産学官を含めた各種団体との協議会設立についても必要性を十分認識しており、併せて知事

と協議していきたい。

人口増加策について



福元 光一

質問 財政的には厳しいものがあるが、人口増加策については、中長期的にはビジョンの下に施策を展開すべきと思うが、市長はどのようなことを考えているのか。

答弁 人口減少や少子高齢化を考えると、地方都市はこの団体も同じ苦しみにあえていると思っている。現在本市の定住政策は、ソフト事業として定住促進補助金制度や定住支援センター事業、薩摩川内市よかまち・きやんせ定住プランを実施しており、中長期的なハード事業は、平成二十一年度策定の第一次薩摩川内市総合計画下期計画の中で、中長期的な定住施策を検討したい。

原子力発電所二号機増設に 関連して



佃 昌樹

質問 ①市民への放射能被害、放射線被曝の情報公開、情報提示が必要だが、九電がやらないとなれば、市民が一定の認識と共有する手立ては当該自治体が負うしかないが、市長の見解は。②知事への「準備書」に対する薩摩川内市の意見の内容については市民に情報公開すべきではないか。

答弁 九州電力に対しては、まず第一に情報を公開して、丁寧な説明をしていただくことを要請している。情報公開ができないのであれば、九州電力と協議しながら、特別な広報紙を別に作成すること、一つの方策である。今御指摘のとおり、市民に十分な説明をする責任があると考えており、予算があれば、特集号を組む必要性も感じており、早速調査をさせたい。